

一隅を照らす

社会福祉法人
北光福祉会
会報

2025. 夏
第12号



最後の体育大会で力走（ひまわり学園）



シバザクラ満開風上げ大会に参加して（ゆめいく）



あさひかわ菓子博2025に行ったよ！（北光学園）



スポーツ大会の大玉ころがし（向陽園）

一隅を照らす 第12号

2025・夏 主な内容

■もう一つのおうち 湯浅 民子……………	P 2
■令和六年度事業報告の概要……………	P 4
■令和六年度 貸借対照表 ……………	P 5
■令和六年度資金収支決算書……………	P 6
■令和六年度事業活動収支決算書……………	P 6
■令和七年度事業計画の概要……………	P 6
■第三者委員を紹介します……………	P 7
■令和七年度新採用職員を紹介します……………	P 8
■第十一回法人内研修会を終えて 柏葉 歩未…	P 9

■行事を通しての地域貢献 荒川 雄太……………	P 9
■高齢期の外出支援 金沢 健一……………	P10
■春のひまわり祭開催 石川 一誉……………	P10
■連載コラム 遊友えんがると私 因 早波…	P11
■ご芳志の御礼……………	P12
■後援会だより……………	P13
■ひまわり学園配管改修工事順調に……………	P13
■道共募からの助成で布団乾燥機購入……………	P13
■お薦めの本 / あとがき……………	P14



もう二つのおうち

社会福祉法人北光福祉会

理事長 湯浅 民子



ひまわり学園
シンボルマーク

七月一日は、ひまわり学園の開園記念日です。記念の催しはないのですが、夕食に「祝い膳」を用意して祝うことになっています。

子どもたちのリクエストをもとに栄養士がメニューを考え、厨房スタッフが手間ひまをかけて調理した豪華な夕食を、子どもたちは喜んで食べてくれました。

学園の年齢を、「五十六歳！」と正確に言い当てた子もいました。

開園した昭和四十四年当時、福祉は本当に貧しいものでした。さらに知的に障害のある人は、社会に受け入れてもらえない存在でした。保育、教育などの門戸は開かれておらず、貧しく非力な福祉施設が多くの役割を担っていたのです。

開園したひまわり学園は、電話中継所庁舎を改造した間に合わせの園舎で、職員は誰ひとり障害福祉の経験をもつてはいませんでした。目の前の子どもたちの日々の暮ら

しと命を護ることがせいっぱいの日々だったのです。「無謀とも言える開園」。後年、初代湯浅正邦園長がそう語っています。

そんな中で、私の心に強く残っている二つのことがあります。

一つは、若さにあふれた職員集団です。苦難をものともしない若い笑顔が、初夏のまぶしい陽ざしと重なって思い出されるのです。

二つ目は、不安や混沌の極にあるお母さんたちの姿です。困難な子育てや先行きの不安から、不備だらけの学園に、すぎるように寄せてくる期待がありました。

若かった私は思ったものでした。障害児の子育ての一端を学園が担って、親と子の幸せな人生を実現させていかなければ……。そんな思いを形にしたのが、学園のシンボルマークなのです。

あれから半世紀以上経って、大きく様変わりした学園に、けれど

もこの二つは重なるのです。

若く前向きな職員集団は、今なお学園に健在です。そして障害のある子どもの子育ては、親たちにとって依然戸惑いや不安が大きく、支えが必要とされるのです。

*

「児童相談所から、入所の相談の電話です」

夏休みが近づいたこの時期、ひまわり学園にはこの種の電話が多くあります。受け入れの決定は園長が行うのですが、先ずは副園長が電話を受け付けます。

「はい」「はい」と、ひととおり聞いたあと、実は学園は今、これこれの状況で、と副園長は説明を始めます。つまり、入所が困難な理由をそれとなく伝えているのです。

定員四十名のうち、すでに三十九名が入所しており、他に一時保護と短期入所を一名ずつ受け入れている学園に余裕はないのです。

仮にあつたとしても、六つあるユニットそれぞれの子どもの安定度や人間関係、支援度などを考えなければなりません。その子が入所することで、それぞれのユニット、

ひいては学園全体が不安定になったり、事故がおきる事態は避けなければならぬからです。

しかし、近隣地域のお子さんや、その子が置かれている状況が緊迫している場合などは、無理をしてでも受けることになります。

こうした入所や一時保護の相談は、全道各地から寄せられます。道南の児相からは、近い施設から順に電話を繰り返して、道東のひまわり学園にたどり着いたと言います。少し前には、首都圏の児相からの照会もありました。

学園がお断りし、入所することができなかつたお子さんご家族は、この後、どうなるのだろうか？ 児相の担当福祉司は、その後の対応策が見つかるのだろうか？

我が子を施設へ入所させるという決断は、余程の事情や、覚悟があつてのことだったろうに、力になつてやれなかつたことが申し訳なく、心に懸かるのです。

かつての障害児の施設が多くの役割・機能を担っていたのは先に述べたとおりです。その後、教育や療育の機関が加わり、機能は分化し

で離れて行きます。ノーマライゼーション思想の普及による地域への流れはそれを加速させ、多くの在宅のサービスが誕生しました。当法人も例外ではなく、児童通園やグループホームなどの取り組みを積極的に行っていました。

一方で障害児の施設は、成人施設への転換などで、どんどんその数を減らして行きます。

「先生、児童はもう斜陽だよ」
その当時に聞いた先輩施設長の言葉です。

障害児入所施設数は現在、医療を含めて全国で二百十九施設、北海道で十二施設です。学園のような福祉型に限って言えば、施設数は最盛期の約半数、定員数では三分の一と大幅に減少しています。

このことは決して悪いことではありません。親元や地域を離れて暮らす入所の形態が、最善の方法とは決して言えないからです。

しかしその結果として、先の児童相談所とのやりとりのように、行き場のない子どもが増えているのです。

愛着の問題や、人間不信に陥って育ちあぐねている子どもの養育

を、誰が担っていくのでしょうか？
さまざまな事情で家庭での子育てが困難になった親の代わりを、誰が果たしてゆくのでしょうか？
ひまわり学園は、そうした子どもやご家族のために、「子どもの施設」であり続けることを選択をしてきたのです。

*

これからの入所施設はどうあるべきかについての検討が、国において開始されたと聞きます。多くの課題はあるのですが、ここに少しだけ私論を述べてみます。

現在、障害児の施設は、「障害」に力点を置いた「発達支援」のくりの中での検討されています。しかしそこに納まりきれない養育上の課題があり、それを抜きにしてはならないと思うのです。そしてそこに主眼をおくならば、「養育」「養護」のくりりょうがよりふさわしいと考えます。

療育の部分は大事にしながらも、ひとりの子どもとして、安心できる幸せな環境の中で、健やかな成長と発達をめざすのです。

そしてその機能を、ひとり入所

する子どもだけのものにせず、在宅の子どもたちも利用できるようにしていくのです。

今のひまわり学園はまさにそうで、ショートステイや日中一時支援の利用で、毎日、誰かかれかが出入りします。時間の融通が利き、宿泊はもちろん、食事も提供されるのですから、利用する側にとつては心強い制度と言えるでしょう。

こうした機能をもっと広げて、子育てを支援する機関として、さまざまな形で役割を果たして行かれたらと思うのです。

すなわち、家庭や地域や自治体と密につながり、家庭訪問や療育相談、地域の子育て支援、進路の相談や退所後ケアなどを、積極的に行っていくようにするのです。

かつてはそれらを目的とした、「療育等支援事業」という事業が存在していました。しかし、制度の変遷の中でその事業は一般財源化され、ここ北海道においては、廃止になってしまったのです。

それによって施設は地域への足がかりを失い、児童相談所や相談事業所からの入所照会や打診をひたすら待つ、という受け身の立場

になってしまいました。そのことが、はがゆくも感じられるのです。

かつての事業を復活させるなどして施設の機能を強化させ、他のサービスと協働しながら、主体性を持って、一人でも多くの子どもやご家族の支えになって行かれたらと思うのです。

*

昨春秋、ノーマライゼーションの父と言われるバンク・ミケルセン記念財団の千葉忠夫理事長の講演を聞く機会がありました。その中で日本の入所施設について触れられ、定員数十名の施設はもはや施設とは言えず、そこで暮らす人にとつては家である、と言っておられたのが印象に残りました。

そう、ひまわり学園で暮らし、成長する子どもたちにとつて、学園は家であるのです。もちろん、生れ育った家があるわけですから、学園はさながら「もう一つのおうち」と言うのがふさわしいでしょうか。

二つのおうちをそれぞれ大切にしながら、豊かで幸せな子ども期を過ごしてほしい。開園五十六年目にしようことです。

(了)



令和六年度 事業報告の概要

当法人は、児童と障害者を対象にした次の事業を遠軽町、湧別町、佐呂間町で運営しています。

- ・入所施設：三ヶ所（児童養護施設、障害児入所施設、障害者支援施設）
- ・障害者グループホーム：十四ヶ所
- ・生活介護事業所：四ヶ所
- ・就労支援事業所：二カ所
- ・児童通所事業所：三ヶ所
- ・相談支援事業：二カ所（児童家庭支援センター、相談支援事業）
- ・居宅介護事業：一ヶ所

この他、短期入所などの在宅支援や、地域での公益的な活動も行っています。

当法人は令和六年十二月で創立から七十周年の節目を迎え、新型コロナウイルスの脅威も遠ざかった令和六年度は、各種活動を再開させ、変化や喜びの多い生活の実現を期して迎えました。しかし、連休明けにグループホームからの内部通報がオホーツク総合振興局になされ、特別監査の結果、行政指導を受けました。これまでの支援を見直すとともに、虐待防止や権利擁護に向けて改善を進めた年になりました。

年末には、各施設・事業所のクリスマスパーティが行われ、楽しいひとときを過ごすことができました。

令和六年度の事業の実施状況は、次のとおりです。

1 法人組織力の強化

コロナ禍で弱まってしまった法人全体の協力や連携体制を取り戻すために、共通の行事などを行い、組織力の強化を図ることを予定していましたが、実施には至りませんでした。しかし、虐待防止に向けての田中齋理事による研修会を、全役職員が参加するために二日間、二回に分けて行いました。

2 法人理念等の見直し

十年前に、作成された理念等を、これからの時代や福祉の在り方にふさわしいものに変えることを予定していましたが、機運が高まらず、次年度に持ち越しました。

3 将来を展望した計画の策定

これについても、検討は次年度に持ち越すことになりました。

その他主な事業は、次のとおりです。

○会議の開催

四月から三月の間に、十四回の理事会を開催し、協議しながら事業の実施に当たりました。評議員会は一回開催しました。その他、経営会議を十二回開催し、連絡や協議を行いながら運営に当たりました。

○監査の実施

監事による業務・財務監査を年四回実施しました。児童と利用者合わせて二〇三人の個人金監査も、年四回実施しました。その他、板垣洋公認会計士による監査指導を二回行いました。

内部監査委員会は、全グループホームの職員の勤務実態などを監査し、課題や改善に向けての把握をしました。

五月にオホーツク総合振興局の特別監査があり、虐待と不適切支援の勧告と文書指導の行政指導を受け、九月に改善報告書を提出、受理されました。

十月に同じく振興局の運営指導がひまわり学園、児童通園、北光学園に入り、口頭の指導を受けました。

○委員会活動

内部監査委員会、苦情対応委員会、研修委員会など十二の委員会で検討作業や活動を行いました。未開催に終わった委員会もいくつかありました。

○規程の変更

◇各施設・事業所の運営規程の変更を行い、虐待防止や身体拘束の禁止など必要な事項を加えました。

◇就業規則の変更

勤務規律、各ハラスメントや虐待の禁止、懲戒などの変更を行いました。

国家公務員に準じた給料表及び期末勤勉手当支給率、扶養手当、寒冷地手当の変更。また、処遇改善特例交付金

に対応した調整手当等や特別手当を支給しました。

○苦情処理の状況

秋には恒例の第三者委員による個別面談を、全入所児童と利用者について実施。大きな問題はありませんでした。

職員対象の相談室を実施しました。

○ひまわり学園配管更新工事の着工

ひまわり学園配管更新工事について令和六年度国・道の補助金の一部採択され、工事に着手しました。

○集会用テントの購入

大友福祉振興財団の助成により、ひまわり学園で大型のテント4張りを購入することができました。

○会報の発行

法人会報「一隅を照らす」を年二回、八月に夏号、十二月に冬号を発行し事業の報告と情報公開を行いました。

○表彰の実施

・永年勤続職員表彰を行いました。
代表して米内山仁が謝辞を述べました。

二十年：米内山仁、岡部香、青山葉子
十年：上野裕介、太田亜依里、奥瑞絵、桜井友幸、加藤亜沙美、東梅梨奈、森英機、長岡春三

・高額寄付を寄せてくれた次のお二人に感謝状を贈呈しました
須藤園子、坂本幸治、

○会計収支決算の状況

令和六年度の会計収支決算の状況は、下表の「貸借対照表」次ページの「資金収支計算書」「事業活動計算書」とおりです。北光学園とひまわり学園は、措置費の単価が上がったことにより収入が増えました。

事業所では、センターもねが定員減で単価が上がったことから収入が増えましたが、それ以外の事業所は、利用者の死亡や入院、報酬改定もあり、収入は減額となりました。児童通所事業のくれよん、ぱすてるは、利用の増加により収入は増額となりました。佐呂間町からは運営費補助金を頂くことができました。また、処遇改善加算の率がアップしたため、職員の待遇改善につなげることができました。



感謝状を受ける須藤園子さん

令和6年度 社会福祉法人北光福祉会 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	660,015,597	646,475,453	13,540,144	流動負債	188,767,822	214,137,332	△ 25,369,510
現金預金	401,196,142	412,794,536	△ 11,598,394	短期運営資金借入金	0	0	0
事業未収金	237,832,444	214,195,641	23,636,803	事業未払金	87,686,503	85,294,318	2,392,185
貯蔵品	226,740	73,460	153,280	1年以内返済予定設備資金借入金	26,525,616	36,342,614	△ 9,816,998
商品・製品	2,379,345	1,825,330	554,015	未払費用	8,884,650	12,682,810	△ 3,798,160
原材料	779,530	736,332	43,198	預り金	4,747	34,380	△ 29,633
立替金	11,826,799	10,747,464	1,079,335	職員預り金	11,336,261	12,522,070	△ 1,185,809
前払金	4,097,638	2,743,028	1,354,610	前受金	120,000	8,463,000	△ 8,343,000
前払費用	1,389,540	0	1,389,540	仮受金	4,540,045	11,328,140	△ 6,788,095
仮払金	287,419	3,359,662	△ 3,072,243	賞与引当金	49,670,000	47,470,000	2,200,000
固定資産	1,925,961,237	1,922,941,188	3,020,049	固定負債	436,435,768	451,951,652	△ 15,515,884
基本財産	792,858,828	826,029,860	△ 33,171,032	設備資金借入金	244,247,523	270,109,142	△ 25,861,619
土地	24,410,430	24,410,430	0	退職給付引当金	192,188,245	181,842,510	10,345,735
建物	768,448,398	801,619,430	△ 33,171,032				
その他の固定資産	1,133,102,409	1,096,911,328	36,191,081				
土地	74,546,735	74,546,735	0				
建物	438,018,891	477,283,085	△ 39,264,194				
構築物	8,445,334	10,724,620	△ 2,279,286	負債の部合計	625,203,590	666,088,984	△ 40,885,394
機械及び装置	26	79,224	△ 79,198	純資産の部			
車輛運搬具	14,647,551	17,957,747	△ 3,310,196	基本金	205,704,674	205,704,674	0
器具及び備品	32,866,508	27,349,093	5,517,415	国庫補助金等特別積立金	373,022,131	396,023,353	△ 23,001,222
建設仮勘定	20,811,881	11,241,881	9,570,000	その他の積立金	351,215,652	295,524,999	55,690,653
権利	147,784	147,784	0	その他の積立金	3,423,006	3,423,006	0
投資有価証券	36,000	36,000	0	人件費積立金	51,801,908	33,400,092	18,401,816
退職給付引当資産	192,188,245	181,842,510	10,345,735	修繕積立金	84,700,000	84,700,000	0
その他の積立資産	3,423,158	3,423,006	152	備品購入等積立金	7,330,000	2,330,000	5,000,000
人件費積立資産	51,801,908	33,400,092	18,401,816	施設整備等積立金	203,960,738	171,671,901	32,288,837
修繕積立資産	84,700,000	84,700,000	0	次期繰越活動増減差額	1,030,830,635	1,006,074,631	24,756,004
備品等購入積立資産	7,330,000	2,330,000	5,000,000	(うち当期活動増減差額)	80,446,809	58,481,799	21,965,010
施設整備等積立資産	203,960,738	171,671,901	32,288,837				
その他の固定資産	177,650	177,650	0	純資産の部合計	1,960,773,244	1,903,327,657	57,445,587
資産の部合計	2,585,976,834	2,569,416,641	16,560,193	負債及び純資産の部合計	2,585,976,834	2,569,416,641	16,560,193

令和6年度 社会福祉法人北光福祉会 事業活動収支決算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日 (単位: 円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	児童福祉事業収益	571,077,614	526,995,574	44,082,040
	就労支援事業収益	4,375,740	9,688,860	△ 5,313,120
	障害福祉サービス等事業収益	891,691,977	865,936,188	25,755,789
	経常経費寄附金収益	5,368,000	3,328,300	2,039,700
	サービス活動収益計 (1)	1,472,513,331	1,405,948,922	66,564,409
	費用			
	人件費	980,584,486	958,150,554	22,433,932
	事業費	201,964,002	192,085,184	9,878,818
	事務費	148,144,807	133,561,691	14,583,116
サービス活動外増減の部	就労支援事業費用	5,261,637	13,420,195	△ 8,158,558
	減価償却費	91,062,708	93,729,162	△ 2,666,454
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 23,857,330	△ 23,771,422	△ 85,908
	サービス活動費用計 (2)	1,403,160,310	1,367,175,364	35,984,946
	サ ー ビ ス 活 動 増 減 差 額 (3) = (1) - (2)	69,353,021	38,773,558	30,579,463
	収益			
	受取利息配当金収益	382,253	15,015	367,238
	その他のサービス活動外収益	9,402,699	12,610,282	△ 3,207,583
	サービス活動外収益計 (4)	9,784,952	12,625,297	△ 2,840,345
	費用			
特別増減の部	支払利息	4,534,251	4,669,667	△ 135,416
	その他のサービス活動外費用	2,456,888	2,274,042	182,846
	サービス活動外費用計 (5)	6,991,139	6,943,709	47,430
	サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 差 額 (6) = (4) - (5)	2,793,813	5,681,588	△ 2,887,775
	経常増減差額 (7) = (3) + (6)	72,146,834	44,455,146	27,691,688
	収益			
	施設整備等補助金収益	9,156,108	15,592,600	△ 6,436,492
	施設整備等寄附金収益	0	0	0
	固定資産売却益	0	0	0
	特別収益計 (8)	9,156,108	15,592,600	△ 6,436,492
	費用			
繰越活動増減差額の部	固定資産売却損・処分損	25	470,347	△ 470,322
	国庫補助金等特別積立金積立額	856,108	1,095,600	△ 239,492
	特別費用計 (9)	856,133	1,565,947	△ 709,814
	特 別 増 減 差 額 (10) = (8) - (9)	8,299,975	14,026,653	△ 5,726,678
	当 期 活 動 増 減 差 額 (11) = (7) + (10)	80,446,809	58,481,799	21,965,010
	前期繰越活動増減差額 (12)	1,006,074,631	987,763,613	18,311,018
	当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	1,086,521,440	1,046,245,412	40,276,028
	基本金取崩額 (14)	0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)	1,600,000	3,570,000	△ 1,970,000
	その他の積立金積立額 (16)	57,290,805	43,740,781	13,550,024
	次期繰越活動増減差額 (17) = (13) + (14) + (15) - (16)	1,030,830,635	1,006,074,631	24,756,004

令和6年度 社会福祉法人北光福祉会 資金収支決算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日 (単位: 円)

勘定科目		予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (A)-(B)
事業活動による収支	収益			
	児童福祉事業収入	559,475,000	571,077,614	△ 11,602,614
	就労支援事業収入	4,580,000	4,375,740	204,260
	障害福祉サービス等事業収入	872,415,000	891,691,977	△ 19,276,977
	経常経費寄附金収入	5,395,000	5,368,000	27,000
	受取利息配当金収入	102,000	382,253	△ 280,253
	その他の収入	8,370,000	9,402,699	△ 1,032,699
	サービス活動収入計 (1)	1,450,337,000	1,482,298,283	△ 31,961,283
	費用			
	人件費支出	966,229,000	969,655,081	△ 3,426,081
施設整備等による収支	事業費支出	214,027,000	201,964,002	12,062,998
	事務費支出	152,754,000	148,070,956	4,683,044
	就労支援事業支出	6,450,000	5,932,701	517,299
	支払利息支出	4,497,000	4,534,251	-37,251
	その他の支出	2,433,000	2,456,888	△ 23,888
	サービス活動費用計 (2)	1,346,390,000	1,332,613,879	13,776,121
	サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	103,947,000	149,684,404	△ 45,737,404
	収入			
	施設整備等補助金収入	16,359,000	9,156,108	7,202,892
	施設整備等寄附金収入	0	0	0
その他の活動による収支	設備資金借入金収入	0	0	0
	固定資産売却収入	0	0	0
	施設整備等収入計 (4)	16,359,000	9,156,108	7,202,892
	支出			
	設備資金借入金元金償還支出	35,663,000	35,678,617	△ 15,617
	固定資産取得支出	29,524,000	28,046,242	1,477,758
	施設整備等支出計 (5)	65,187,000	63,724,859	△ 1,477,758
	施 設 整 備 等 資 金 収 支 差 額 (6) = (4) - (5)	△ 48,828,000	△ 54,568,751	5,740,751
	収入			
	積立資産取崩収入	1,600,000	14,299,730	△ 12,699,730
その他の活動による収支	その他の活動による収入	0	0	0
	その他の活動収入計 (7)	1,600,000	14,299,730	△ 12,699,730
	支出			
	積立資産支出	52,819,000	78,719,940	△ 25,900,940
	その他の活動支出	0	0	0
	その他の活動支出計 (8)	52,819,000	78,719,940	△ 25,900,940
	その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	△ 51,219,000	△ 64,420,210	13,201,210
	予備費支出 (10)			0
	当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)	3,900,000	30,695,443	△ 26,795,443
	前期末支払資金残高 (12)		513,589,073	△ 513,589,073
	当期末支払資金残高 (11) + (12)	3,900,000	544,284,516	△ 540,384,516

※詳細は、北光福祉会ホームページ内及び社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムなどおいても公表しております。



社会福祉法人 北光福祉会

令和七年度 事業計画の概要

令和七年度の北光福祉会は、次の五点を重点事項に掲げて事業の実施に当たります。

1 法人組織力の強化

昨年度に続いてこのことを掲げます。研修会や委員会を通してつながりを深め、協力し合いながら事業を進めます。また、法人や相談事業などへの繰入れを公平・公正に行い、一体感をもって経営に当たるようにします。

2 記念誌の発行と理念等の見直し

これも昨年に続くものとして、創立七十周年を迎えた歴史を残すことと、続く歩みの道標になる理念等の作成を進めます。全役職員からアイデアを募って決定します。

3 虐待防止・権利擁護の強化

昨年度の教訓の上に立って、強化に努めます。職場内の人間関係の課題を改善し、ひとり一人が権利擁護の視点に立ち、虐待につながらない支援の提供に努めます。

4 事業内容の見直しと改善

児童通所の佐呂間町めるくるの単独事業所化など、ご家族も含めた在宅の子育て支援の強化に努めます。また

就労支援のほたるやサン・コロネの事業内容を検討し、働く場の確保に向けて改善を進めます。

5 施設整備に向けての計画の策定

狭隘や老朽化の著しい生活介護や就労事業所、築四十八年を迎えた向陽園の整備に向けて、具体的な計画や必要な準備に当たって行きます。

事業の概要等は、次のとおりです。

○令和七年評議員・役員

令和七年度は役員・評議員の改選期に当たり、次の評議員・役員が選任され、理事長に湯浅民子が選定されました。よろしくお願いいたします。

《評議員会》

評議員	中川 哲夫
評議員	廣島 賢子
評議員	馬場 洋子
評議員	浅利 誠
評議員	舟木 淳次(新)
評議員	山保 浩之(新)
評議員	石丸 博雄(新)
評議員	鏡 栄子(新)
評議員	安達 雅美(新)

《理事会》

理事長	湯浅 民子
理事	堤 茂樹(業務執行理事)
理事	藤井 康成(業務執行理事)
理事	米内山 邦子
理事	新山 史賢

理事	工藤 克哉
理事	長谷川 光夫
理事	田中 齋
監事	加藤 政雄
監事	飯田 壮一

○会議の開催

定款の規定に沿って評議員会、理事会、経営会議を開催し、経営上の諸課題を協議しながら運営に当たります。その他施設長等会議等を開催し、連携や調整を行います。

○監事監査及び内部監査の実施

年四回の個人預り金と、会計・業務の監査を行い、万全を期していきます。

内部監査委員による内部監査を実施し、必要な改善を図っていきます。

○委員会活動

委員会活動を継続して実施し、役員が意見やアイデアを出し合う機会とします。新たにコンプライアンス委員会を設け、検討を進めます。

○苦情対応

法人の苦情対応規程に沿って苦情対応に万全を期します。

第三者委員と協力し、恒例となった児童・利用者との個別面談を行い、思いや要望あるいは問題の早期発見に努めます。

○働き方や人材育成の強化

働き方について、人材育成の視点か

ら改善を進めます。特に定年延長について具体的な検討を行います。

○研修の機会の確保

第十二回法人内研修会を実施します。その他、法人全体の研修の機会を持ち、学びと相互交流の機会を確保していきます。

○会報の発行

「二隅を照らす」夏号と冬号を発行し、事業活動の報告と、情報提供や啓発に努めます。併せてホームページの充実や、SNSでの発信を検討します。

○法人記念誌の作成

昭和二十七年、法人の事業を開始から本年度で満七十年を迎えるところから歴史を記すことを目的とした記念誌を作成します。

○施設・設備の改修

◇ひまわり学園配管更新工事
ひまわり学園の配管更新工事を、国費・道費の補助金により実施します。完成は八年三月です。

◇エアコンの設置

北光学園・向陽園の食堂等のエアコン設置を進めます。

◇用地の取得

ひまわり学園に隣接する用地の取得を進めます。取得後は、小グランドや建物の建設など活用について、検討を進めます。

○第三者委員を紹介します
何かありましたらご相談ください



加藤 政雄
(法人)



飯田 壮一
(法人・北光学園
ゆめいく)



埴山 和成
(北光学園)



浅利 誠
(ばすてる・めるくる
センターもね)



山崎 文隆
(ひまわり学園
くれよん)



鏡 栄子
(向陽園
遊友各事業所)



大辻 佑一
(向陽園
サン・コロネ)

令和七年度

新採用職員の紹介します

令和七年春から勤務している新任職員に抱負を述べてもらいました。
どうかよろしくお願いします。

北光学園

西川 結



一日一日を大切にしながら子どもたち一人ひとりと丁寧に向き合い、子どもたちの笑顔と信頼を育める職員になるよう努めていきます。日々の関わりや学びを大切に、職員としても人としても成長していきたいと思っています。

近江 侑斗



北光学園に勤めて三カ月が経ちました。四月当初に比べると子ども達とも少しずつ打ち解けてきたように感じます。これから北光学園の一員として、子ども達の頼れる「兄」として精進していきたいと思っています。

谷内 繁一



子どもたちは、「話を聴いてほしい」「怒らないでほしい」「一緒にあそんでほしい」など、いろいろ

ろな願いがあると思います。その願いを聴き子ども達と一緒に成長しながら過ごし受け止め、尊重していきたいと思っています。

米内山 英恵



きずなホームで働かせていただいて、あつという間に三カ月が経ちました。子ども達が将来自立して生活できるように、日々の色んな経験を通して成長できるように支援していきたいと思っています。

ひまわり学園

金子 楓



毎日、子どもたちの笑顔に元気をもらい、楽しく過ごすことが出来ています。一人ひとりに合わせた支援をし、側で成長を見守っていききたいです。子どもたちと元氣いっぱい笑顔で過ごせたらいいなと思います。

森月 美香



2018年に一度退職しさまざまな環境の中で経験・体験をし、四月から再入職させてもらいました。約七年経つと、当時、関わっていた子どもたちの成長に驚きましたが、この子どもの大切な成長の過程を預かっているということを意識して、一

人ひとりに寄り添い、サポートしていきたいと思っています。

丸尾 俊輔



四月から働いて前職は通所施設に勤務していましたが、そことは違い、子ども達と関われる時間が長い分、大変に感じることもあります。しかし、一緒に楽しく過ごす時間がとれたり、色んな支援をしながら、子ども達と共に日々を歩めることが、やりがいになっています。

岩瀬 賢一(用務員)



縁あってひまわり学園に勤務することになりました。同じ安国に住んで関わりはありましたが、遠く感じていて、自分が働くとは思っていませんでした。職員の皆さんはあいさつがきちんとしていて、すばらしいと感じたのが第一印象です。今までの仕事とは大分違って、子ども達と接することもあり、日々「しげき」を感じながらがんばっていききたいと思っています。

鈴木 富美枝



四月より、パオパオA・パオB・ひまわり学園の預り金管理業務を担当しています。まだ数カ月

の勤務ですが、日々子どもたちの元気な声が響き、若いスタッフの明るく、熱意を感じる環境に日々感動しております。利用者様と子どもたちの大切な財産、日々責任を持って管理します。

燦ホーム

山本 貴史



今年度より燦ホームの職員としてお世話になっていきます。出身は遠軽町丸瀬布。福祉系の専門学校を卒業後、剣淵町で十年ほど障害福祉の仕事を行いました。その後は遠軽町に戻り、高齢者福祉の仕事に関わってきました。様々な「福祉の経験を活かして「二隅を照らす」を胸に、日々精進したいと思っています。

くれよん

佐藤 智子



毎日、子ども達の笑顔に元気をもらっています。子ども一人ひとりに寄り添い、適切な支援ができるよう日々努力していきたいです。子どもと同じ目線で、一緒に遊びながら共に成長していけたらいいなと思っています。

それぞれの職員を温かく見守り
よろしく願います。

第十二回法人内研修会 を終えて

法人内研修会実行委員会委員

柏葉 歩未

令和七年三月二十日、法人の役員と職員を対象にした法人内研修会が、町内のホテルサンシャインを会場にして開催されました。

実行委員長である長谷川光夫理事の挨拶のあと、永年勤続の表彰と、感謝状の贈呈が行われました。

その後、第十一回を迎えた今年は、法人設立から満七十年を迎える節目であることから、「北の一隅に灯し続けて」北光福祉会の七十年をふり返り、これからを展望する」を題目として、湯浅理事長より講演をいただきました。温かい言葉で、法人の歩みをお聞きしている時間は、まるで昔にタイムスリップしたかのような感覚になり、創設にいたる経緯、苦悩、想いを受け止めながらこれまでの歩みに感謝するとともに、明日からの仕事、そして次世代に繋げていく役割を果たさなければならぬと感じました。

午後からは、法人内に設置されている十三の委員会による「委員会活動の紹介」、そして法人職員が委員会活動を身近に感じられるようにと、現場職員で企画を行ったグループワークが実施

されました。「なりきり委員会」と称し、今の自分たちに必要なことを話し合いながら、法人内で共に働く仲間たちと気持ちを分かち合いました。

これからの北光福祉会に必要なことを、自分たちなりに考える機会となり、明日からの北光福祉会を創り上げていくという意識、法人の職員の一員だという自覚を、改めて感じる時間となりました。またそれぞれのグループには、役員や議員の方も加わっていたので、考えや意見を交換する貴重なひとときにもなりました。

一日を通し、「北光福祉会の昔・今・未来」を考える意義深い一日を過ごすことができた研修会でした。



講演をする湯浅理事長

行事を通しての地域貢献

北光学園保育士 荒川 雄太

北光学園では、五月と十月の年に二回、三つの班にわかれて任された地域をまわり、新聞紙やダンボール、空き缶などを回収する古紙回収という学園行事があります。

参加する園児は、基本的に中学生から高校生。そして学園職員が参加します。場合によっては小学六年生も次年度に向けて経験として参加することもあります。

事前に日程を各地域の住宅や機関にチラシを配布して周知するので、当日には各在宅や各機関前には新聞紙などが置かれています。これらの物を回収業者にも協力をしていただいた中で連携をしていきながら回収をしていく活動になります。

回収した分、収入として入るので中には気合いがはいる園児もいます。

新型コロナウイルスが流行していた際には地域の方々との交流することは制限もあったため、回収するにあたっての感謝の気持ちを直接伝えることが難しい状況でした。しかし、コロナウイルスが治まった現在では、各在宅に訪問をし、「おはようございます」や「こんにちわ」の気持ちいい元気な挨拶や、古紙回収

に協力していただいたお礼の気持ちである「ありがとうございます」を直接伝えることが出来るようになりました。

地域の方々は、北光学園という名前を聞くと、笑顔で

「いつもありがとう」「本当に元気な声で挨拶をしてくれるね」

など大変嬉しいお言葉をいただくことがあります。この言葉を胸に気温が高い中でも園児達は頑張ることが出来ます。途中でくじけても周囲を見渡し、頑張っている他の園児を見ると「頑張ろう」「負けてられない」「自分も貢献しなきゃ」という気持ちから「協力や助け合いからの達成感」を得ることが出来ると思います。



古紙回収の作業中

北光学園は児童養護施設という中で、社会性や自立をしていくための基本的な知識などを身に付けていく場ですが、このような行事を通して、何事にも一人だけではなく、周囲の仲間と切磋琢磨し、一つの目標に向かって取り組むことの大切さ。そしてその目標達成した瞬間の喜びを感じてくれたらと思っています。

今後も古紙回収を含め、行事などで地域に貢献していくこと。地域の方々から継続して愛してもらえよう元氣な挨拶や明るい姿をこれからも発信してまいりたいです。

高齢期の外出支援について

向陽園生活支援員 金沢 健一

障害者支援施設向陽園の入所利用者さんには、高齢期を迎えている利用者さんも多く生活されています。

入所している利用者さんには、「向陽園で生活していく中で、何が楽しい？ 何が面白い？」

と伺うと、

「外出、旅行、温泉」

と笑みを溢して答えます。

そのような状況がある中、令和七年度の向陽園として取り組んでいること、特に高齢期における入所利用者さんの

意志を尊重して行う外出支援について紹介していきたいと思っています。

今年四月、向陽園に新しい公用車が入りました。車椅子の利用者さんでもそのまま乗車できます。

このこともあり、車椅子の利用者さんの念願を成就させるべく、温泉旅行の計画に着手しました。要望の聞き取りや、旅行中の特別な配慮など、支援について話し合いました。

今年七月に実現。阿寒への外泊を兼ねて温泉と観光を目的にした旅行です。阿寒湖で観光船に乗り、「コタン」で買い物や食事、遊久の里、鶴雅で一泊と大変満足のいく内容だったと話してくれました。

車椅子でも外出がしたいという利用者さんの思いを尊重した支援を、今後も行いたいと思います。



阿寒旅行、たのしかったよ！

春のひまわり祭開催

ひまわり学園保育士 石川 一啓

コロナ禍明けの五月三十一日、毎年恒例の春のひまわり祭が、学園の中庭で行われました。年に三回、保護者やご家族と一緒に、おいしいものを食べ、楽しい時間を過ごすことにしています。

昨年は、ひまわり学園分校の運動会に合わせていましたが、子どもたちなどへの負担が大きく、今年は単独の行事として実施しました。

職員も楽しみですが、子どもたちのほうがとても楽しみにしていました。

前日、当日の準備も、子どもたちのほうから「手伝いしたいです」と積極的に声をかけてくれ、汗をかきながらテントなどを立ててくれていました。

今年度から、新しいテントが増え（大友福祉振興基金からの寄贈）、みなさんに披露することもできました。

ひまわり祭当日は、天候にも恵まれ、青空の下で、おいしいジンギスカンをご家族、職員とお話をしながら食べることができました。みんな、「おいしい、おいしい」と言いながら、厨房が用意してくれたおにぎりや焼きたてのジンギスカンを満足するまで食べ、食後のデザートアイススクリームもおいしそうにほおばっていました。

食後には、六つの寮の対抗の家族協

力玉入れを行いました。年齢、体格に合わせて、かごを高くしたり、低いかごを用意したりし、親子に職員も加わって協力しあい、白熱した戦いになりました。豪華な景品も用意していたので、子どもたちも本気になり、最後には肩車も出る始末でした。

子どもたち、保護者さんのほかに、きょうだいや祖父母の方々の参加もあり、くつろいだ雰囲気の中で、楽しそうな笑顔がたくさん見られ、みなさんにとって楽しく思い出に残る、貴重なひとときになったと思います。今後も楽しい家族交流ができるような行事にしていきたいと思っています。



白熱した玉入れ



お母さんといっしょ

遊友えんがると私

因 早波

私の息子は自閉症です。

札幌の療育センター「こどもつくる」で検査してもらい、診断を受けた時は息子はまだ2歳前でした。

自閉症について知識が何もない私は、この子を育てていけるのか？そう思いました。不安気になっている私に、担当医は言いました。

「子どもとして育てていけばいいのよ。食事もトイレも着替えも、時間はかかるかもしれないけど、時間はかかるかもしれないけど。」

他にも、靴下を嫌がることや偏食で困ることを相談すると

「靴下は履かなくても生きていける。」「ごはんを食べなくてもパンは食べるでしょ。充分よ。」

と私の心が軽くなる言葉を掛けてくれました。単純な私はお医者さんが言うならそれでもいいか!!と。

私と息子の生活を支えてくれる人は他にもいました。親、姉弟、近所の方、幼稚園、小学校、ひまわり学園分校の先生方、児童デイくれよんや、ひまわり学園日中一時支援の職員さん。皆様に支えられ、私は幼稚園やくれよんで仕事を続けることができ、息子も個人を

尊重してもらえたお陰で、自由にのびのびと、「こだわり」と「怪我」満載で、心も体も（体は予想以上に）大きく育ちました。

そんな息子も高校三年生になりました。私は「息子が学生の間は子育てを自分で行い、あとは人に託そう。一人っ子だしね。」と考えていたので、施設入所の申し込みへ行きました。

「これで私の子育ても終了か…」とそんな気持ちでした。

ところが「順番待ちがある」と言われびつくり!! さらに「両親共に仕事をし、元気で子どもを養育するのに困らない家庭は優先順位が低い」と言われ、またまたびつくり!!

子育てに終わりなし。

「私は仕事を辞めて息子とずっと家にいなくてはいけなのかな…」

そんな考えが頭をよぎりました。

子どものころから幼稚園の先生になりたくて、大嫌いなピアノのレッスンも泣きながら頑張つて、幼稚園に就職できた時には、「やったー」と、飛び上がって大喜びしました。

息子が生まれ、診断を受けてからは、この子の為に福祉をまなばなくてはいいけないという思いで、ひまわり学園の面接を受けました。その頃、法人に新しく児童デイサービスを立ち上げるので、資

格がある保育経験者を募集しているとのことでした。それに応募して「くれよん」のスタッフとして採用されました。

そして実際に仕事をしてみて、日々CSPを始め、いろいろなことを教えてもらい、パートではありますが、充実した『お仕事ライフ』です。

つまり私は、幼稚園とくれよんの仕事が大好きなのです。

「どうしたら、障害のある息子を育てながら、仕事を続けていけるか」

を学校の先生に相談しました。

そんな時、息子が実習でお世話になったのが「遊友えんがる（生活介護事業所）」です。現在利用登録数20名、年齢が20歳代〜90歳代と年齢層が幅広いのが特徴です。

日中活動をしなが利用者のさんの健康維持を行っている穏やかな事業所。こだわりと自由を愛し、声も動きも最強の息子を受け入れてもらえるだろうか？不安しかなかったです。

ひまわり学園分校の先生は、「遊友えんがる」は、利用者の皆さんが穏やかで、息子さんが何かやらかしたとしても、温かく見守ってくれるだろうし、ぶつかる相手もないだろうから、おススメですよ」と、おっしゃいました。

私はその言葉を聞いて、決めました。「不安はあるけど、ここに息子を通わせ

たい!」と。

そこから関わりのある各事業所、学校、遊友えんがるの管理者の方たちと話し合いが行われ、晴れて通うことになったのでした。

あれから5年。息子は毎日「遊友えんがる」に通っています。相変わらず問題山積みですが、

「一緒に考えていきましょう」

と息子にも私にも寄り添ってくれるのが「遊友えんがる」です。

毎日息子に対し「オイオイ」とツッコミを入れる私には「一緒に考えていきましょう」は魔法の言葉。「一人で子育てしているのではない」という気持ちにさせてくれます。

私の終わりのなき子育てをサポートしてくれ、息子の毎日の生活を支えてくれ、私たち家族は「遊友えんがる」のお陰で今日も元気に過ごしています。いつもありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願いします。



チューリップ公園に外出

御芳志の御礼

令和七年一月一日から、六月

三十日までの間に、次の多くの皆さまから、法人事業のため、または施設に入所あるいは利用している子どもや利用者のために役立ててほしいとの趣旨でご芳志をいただきました。

誌面を通じて厚くお礼を申し上げます。(敬称略・順不同)

寄付金

《北光福祉会》

匿名希望2件(遠軽) 吉田さやか(札幌)

合計 30,000円

《北光学園》

米内山邦子 服部憲尚 三浦幸子(遠軽) 飯田壮一 中山雅之 羽賀商店(北見) 網走市女性保護の会(網走) 武田恭明(札幌) 横瀬兼二(東京) 匿名希望1件

合計 510,000円

《ひまわり学園》

細木亜由美 安立加代子 アート美容室(遠軽) 大口薫(湧別) 石岡玲子(紋別) (株)東伸(北見) 中井雅幸(帯広) 吉田さやか(札幌)

合計 270,000円

《向陽園》

アート美容室 小林幾子 安立加代子(遠軽) 成瀬 俊悦 坂本幸治(雄武)

合計 1,135,000円

《燦ホーム》

安立加代子(遠軽町) 星屋泰賢(土幌)

合計 30,000円

《ゆめいく》

安立加代子(遠軽)

合計 20,000円

寄贈品・ボランティア

《北光福祉会》

遠軽信用金庫 加藤政雄 飯田壮一 長谷川光夫 湯浅民子 新山史賢 米内山邦子 堤茂樹 工藤克哉 藤井康成 斎藤昌司 野村幸子 北洋銀行遠軽支店(遠軽) 田中齋(弟子屈)

《北光学園》

佐藤由美子 花岡美和 楳めぐみ 笹森英昭 椎名美紀 高嶋弘三郎 大江二三恵 大澤美津代 片平おやつ工房 浅利誠 吉田久子 真鍋精一 橋本政司(遠軽) 中平祥司 北見洋菓子協会 久保満里奈 土田浩子 長谷川育子 原田典朗 カープス トドック 森良子(北見) 田中雄一 高内淳次(訓子府) カープス(網走) (株)ながさ

わ 鈴木あさみ(美幌) こまつや

川畑早苗(湧別) 小林則子(紋別) 山本秀勝(旭川) 及川詩音(釧路) ジェリースポップコーン(有)アクト警備オフィス(札幌) 佐藤敬子(豊富) (公財)自動車リサイクル促進センター サンエックス(株)(東京) 実祝プランニング(伊丹) 斉藤正七郎(桐生) 小林理(平塚) 吉田明香(倉敷) 遠藤茂子(USA)

ボランティア

救世軍遠軽小隊(遠軽) 山本秀勝(旭川) 梶田翔大 瀬川心(北見)

《ひまわり学園》

小山広明 小西商店 米内山仁 片山昭雄 皆川悠子 青野恵美子 遠軽信用金庫 安国小学校 原田美希子 茶木建設(株) (有)ウエノ(株)工藤電機(遠軽) 江口千裕(佐呂間) 松原佑治(湧別) 森谷可奈子 森谷権三(株)東伸 小柳中央堂 るべしべ光星苑 永井春美 会田勝男(北見) 伊藤香葉 寺田久(紋別) 金井麻湖 馬場洋子(訓子府) 新鞍さゆり(美幌) 坂本美幸(斜里) 石井宏和・彩(大空) 柿崎有美(旭川) 中井雅幸・美希 鈴木悦子 田中佑歩(帯広) 中井加代子(幕別) 吉田さやか 松本美春 石橋志穂美

(札幌) 堀健一(大阪)

ボランティア

青野恵美子 鏡知一 鏡栄子(遠軽)

《向陽園》

梅澤尚明 安立加代子 縄陸博 千葉理人 佐藤富枝 山川悟 黒瀧久子 小林幾子 斎藤昌司 堂前久美子(遠軽) 尾藤照明 飯田壮一 川森修二 小原夏代(北見) 島田和男 滝口貞子 水野知一郎 角田摩美(紋別) 西澤利秀(大空) 馬場洋子(訓子府) 坂本幸治(雄武) 齊藤久恵(新得町) 三澤勝(東神楽) 大澤潤子 大澤知行(剣淵) 途中政和 鍋田正勝(札幌)

《ゆめいく》

内野郁子 佐藤昌生 長岡春三 佐藤ゆかり 樋口順子 堂前正雄 岩井宗子 佐々木礼美 安立加代子 今井美香 長岡世里奈 中谷多賀湖 佐藤利江(遠軽) 金内ヨシエ(湧別) 川森修二 丸山守八木沼稔子 国奥順一 佐藤良子 阿部美代子 石澤英一(北見) 楠目広志(美幌) 菱木富美子(斜里) 岩本静夫(札幌) 白川陽子(函館) 大場玲子(さいたま) 岩村真一(千葉)

《遊友やすくに》

温盛幸治 梶田伸男 山岸文夫

伊藤美千子 粕谷さつ子 浅井宏實 佐藤亘 横井サツ子 丸山守石澤英一 安立加代子(遠軽) 《遊友ほたる》 丸山信二 鈴木弘志 斎藤昌司 遠藤光枝 大真寺(遠軽)

《燦ホーム》

遠軽町ライオンズクラブ 我妻香苗 千葉美佐世 花山幸子 井之口千栄 有倉リヨ子 松尾淳司 佐藤亘 辻深雪 野村幸子(遠軽) 田中由雄 土門きみえ(佐呂間町) 安彦好子(湧別) 今本勲 西田光子(北見) 廣島真美 白田和博(紋別) 森岡陽子(滝上) 楠目広志 高橋忍(美幌町) 植野博雄(網走) 森本麗子(帯広) 森田孝俊・初江(別海) 黒川京子 赤岡尚美 秋保恵治(札幌) 加藤政伸(苫小牧) 山下章吾(横浜)

《センターもね》

廣島真美(紋別) 《くれよん》 國松大輔 岡田勝美 上林藍(遠軽) 惣田譲治(佐呂間) 《ぼすてる》 松尾淳司(遠軽町) 書き損じはがき・ベルマーク 六車潔(遠軽) (株)東伸(北見) 馬場洋子(訓子府) 高橋忍(美幌)

後援会だより

北光学園後援会

令和七年一月一日から、六月三十日までの間に、北光学園後援会に次の皆さまから、ご協力をいただきました。誌面を通じて厚くお礼を申し上げます。

(敬称略・順不同)
青野シマ子(遠軽) 佐々木正俊(小清水)

合計 60,000円

ひまわりの里後援会

ひまわりの里後援会では、令和七年度の定期総会を、五月三十一日に開催しました。年に一度、懐かしい顔ぶれが集まって参加してくれるのですが、年々、数が少なくなるのが、さびしいところです。令和六年度の収支の状況は、次のとおりです。ご支援ご協力をお寄せ下さった多くの皆様に、感謝を込めてご報告いたします。

事業収入では、予定されたバザー等はできませんでしたが、切手売捌き、書き損じハガキ、ひまわり学園のコーラ自販機の売上等の収入が、三十八万円余ありました。

なお、支出では、ひまわり学園配管更新工事の費用として、

五〇〇万円の助成を予定していましたが、補助金の関係で工事の着工がずれ込んだところから、令和七年度の助成になりました。

○令和六年度収入の部
会費・寄付金等の収入

1,689,000円

事業収入(切手売り捌きほか)

381,692円

前年度繰越金

15,192,916円

○令和六年度支出の部

63,646円

○差引き合計額(次年度繰越金)

17,199,962円

令和七年一月一日から、六月三十日までの間に、ひまわりの里後援会に次の皆さまから、ご協力をいただきました。誌面を通じて厚くお礼を申し上げます。

(敬称略・順不同)

東海林不動産(株) 大湧工業(有) 旭川トヨタ自動車(株) イト電商事(株) ネットトヨタ北見(株) 遠軽店 望月利昭 (有) ウエノ 栄管工業(有) 苗田建設(株) 松原建設(株) アート美容室 遠軽町社会福祉協議会(株) 渡辺組 井上産業(株) 三共後藤建設(株) 福田進 (株) 工藤電機 茶木

建設(株) (有) 遠軽清掃社 遠軽通運(株) 小西博史 生田原歯科診療所 新山史賢 遠軽信用金庫生田原支店 黒滝久子 松尾淳司 佐藤富枝 安立加代子 浅井宏實 大神田佳代 我妻香苗 千葉美佐世 六車潔(遠軽) 土門善弘(佐呂間) 松浦敬貴 端場洋子 大口眞一郎(湧別) 井関利男(株) 小柳中央堂 中央防災(株) 松田義明 森谷権三(株) 東伸 田岡久治 岩崎久衛 会田勝男 佐藤宏士 飯田壮一(北見) 馬場洋子(訓子府) 山下常男 白田和博 廣島真美 島田和男 瀧口貞子(紋別) 森岡洋子(滝上) 成瀬俊悦(雄武) 菅野智恵子(津別) 菱木富美子(斜里) H J K(株) 富士産業(株) (旭川) 齊藤久恵(新得) 池田商店(雨竜) 秋保恵治 佳総合設計室 吉田亮介・さやか(札幌) 加藤政伸(苫小牧)

合計 1,169,000円

◇集めています

・書き損じや不要のはがき
ひまわり学園までお届けください。
・ベルマーク
同じくひまわり学園までお届けください。

◇切手・ハガキ・印紙の販売をしています。

ひまわり学園 配管改修工事順調に

平成二年に改築されたひまわり学園園舎は、三十四年の歳月を経て、あちこち老朽化してきていますが、特に床下を通っている配管が傷んできており、数年前、床下に蒸気が充満したことがありました。暖房や給水が止まっては、生活に即支障が出てきますが、全面的な取替工事は多額の経費を必要とします。



工事中の本園廊下



仮囲いのラベンダー

このため、令和五年から国・道の補助金の申込みをしていたのですが、令和六年度と七年度の二年で補助金が決定し、三月から工事に着手しています。

子どもたちの日々の生活の場の工事ですが、施工業者の茶木建設、ウエノ設備、工藤電機の皆さんは、

生活への支障を少しでも少なくするように気を遣いながら作業を進めてくれています。

とはいえ食堂や廊下に仮囲いが設置されましたが、某日、そこにラベンダーの香りがそこはかとなくただよいました。青野恵美子職員が、自宅庭のラベンダーを乾燥させて、仮囲いの壁に飾ってくれたのです。

暑い夏の二服の清涼剤。感謝

道共同募金会からの助成で 布団乾燥機購入

ひまわり学園の布団乾燥機は、平成二年に購入したもので、三十四年間、使い続けてきましたが、老朽化し、電源が入らないなどの故障が出るようになりました。更新するべく共同募金会に助成申請していたところ、令和六年度の配分が決定し、七月十日、新たな布団乾燥機が納品されました。長く大切に使用させていただきます。

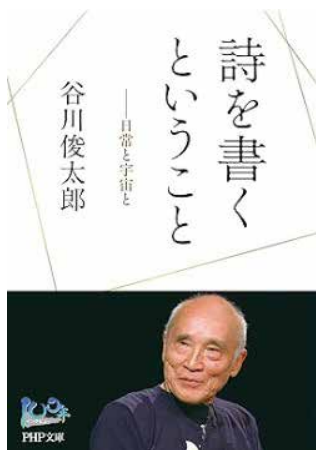


布団乾燥機と山崎さん

お薦めの本

「詩を書くということ」

谷川俊太郎



「あげます」
もぎたてのりんごをかじったこともあるし
海に向かってひとりで歌ったこともある
スパゲッティを食べておしゃべりもしたし
大きな赤い風船ふくらませたこともある
あなたをすきとささやいてそして
しょっぱい涙の味もう知っている
そんな私のくちびる・・・

いまはじめて・・・あなたにあげます
世界じゅうが声をひそめるこの夜に
作詞 谷川俊太郎
作曲と歌 小室 等

今回は、国や年齢を超えて広く愛された詩人谷川俊太郎さんの本を紹介します。

この本を読むと、自分にも詩を書ける、そんな気になってしまいます。
～縦15cm 横10.50cm
重さ109g～ ポケットにもポシェットにも入ります。

少し時間があつたら、どこから読んでもいいのです。きっと、自分を見つめる“ひと時”となるでしょう。「生きる」は、P24～28に掲載されています。

2024年11月逝去されました。

(理事 新山 史賢 記)

後援会ご協力をお願い

お一人でも多くの方のご支援やご協力を望んでおります。お志のある方、下記へご連絡ください。

○北光学園後援会

☎0158・45・2233 (北光学園)

○ひまわりの里後援会

☎0158・46・2020 (ひまわり学園)

☎0158・46・2525 (向陽園)



暑さに強い砂漠のバラ！満開



社会福祉法人 北光福祉会

〒099-0622

北海道紋別郡遠軽町生田原安国302番地7

☎0158 (46) 2120・FAX 0158 (46) 2080

H P : <http://www.hokko-fukushi.or.jp/office/>

E-mail : office@hokko-fukushi.or.jp

●児童養護施設 北光学園 ☎0158-45-2233・FAX45-2041

地域小規模児童養護施設 きずなホーム ☎0158-45-2206

●児童家庭支援センター 子ども家庭支援センターオホーツク

☎0158-45-3211

●障害児入所施設 ひまわり学園 ☎0158-46-2020・FAX46-2080

●障害者支援施設 向陽園 ☎0158-46-2525・FAX46-2277

●地域生活支援事務所 パオ ☎0158-46-2120・FAX46-2080

パオ遠軽 ☎0158-42-3811・FAX 46-3384

●共同生活援助事業 ゆめいく (7ヶ所) 燦ホーム (7ヶ所)

●生活介護事業所

遊友やすくに ☎0158-46-2277 遊友えんがる ☎0158-42-3389

センターもね ☎0158-42-3720 スペースもね ☎0158-46-2120

●就労継続支援B型事業所

遊友ほたる ☎0158-46-2460 サン・コロネ ☎0158-46-7077

●児童発達支援・放課後等デイ サービス ☎0158-8-7300

くれよん ☎0158-46-2020 めるくる ☎0158-6-7510

●居宅介護事業所 ぱれっと遠軽 ☎0158-42-3811

●相談支援事業 ま〜ぶる ☎0158-46-3383

あとなぎ

今年の夏は、二つの脅威にさらされています。

一つは暑さ。涼しいはずのオホーツクが、39°という暑さに見舞われたのです。北国の人間にとっては苛酷です。

今一つはヒグマの出没です。道南で傷ましい事故がありましたが、この地でもあちこちから目撃情報もたらされ、注意喚起がされています。

朝夕、愛犬の散歩をしています。春、向陽園の裏手の森に丹頂鶴のつがいがかみついて二羽のひなをかえし、みどりの林の中に、白い姿を探しながら歩いたものでした。ところが今は、黒いヒグマの姿を探しながら歩いているのです。

今年は例年より、動物の気配が多いように感じます。鹿、キツネ、アオサギ、丹頂鶴、そして早い時期からのヒグマ...

これも暑さの影響なのでしょうか？ 彼らも生き抜くために、子育てのために必死なのでしょう。その元凶を作ったのは、私たち人間のいとなみなのでしょうね、きっと。

利用者の保護者の訃報が複数もたらされました。いずれもかけがえのない母親のものでした。

心の中で問いかけずにはおられません。

お母さん、早すぎたのでは？ 悩みの多い生涯を送られ、最後まで我が子のことが気がかりだったことでしょうね。でもかつてあなたが母親として輝いていた姿は忘れませんよ。

私たちは果たして、どれだけお力になれたのでしょうか？ (湯浅記)